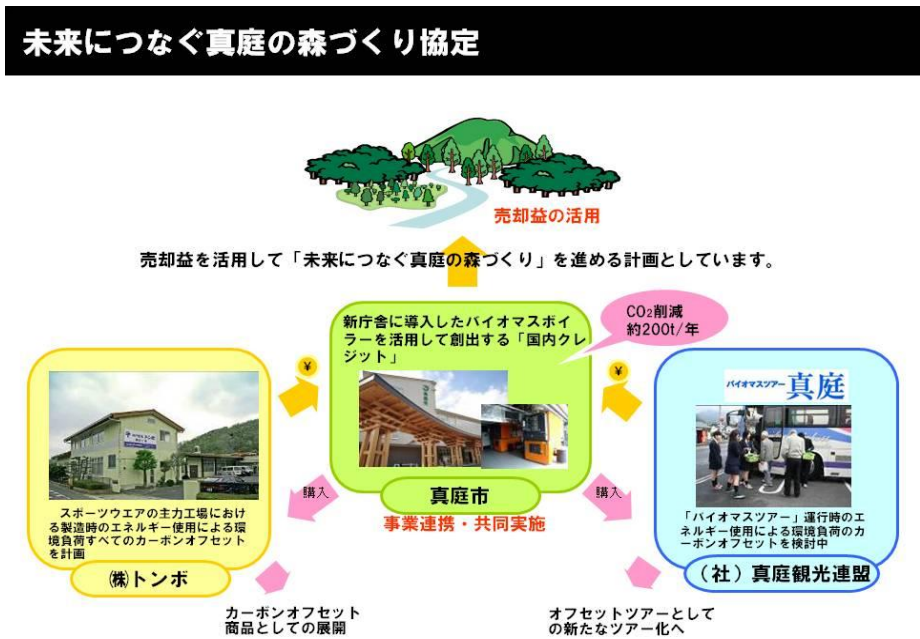


## 里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	計画策定と実行プロセス
手法名	企業と自治体が連携した複合的な里山利用策
主体	岡山県真庭市
背景(地域の課題)	<p>自治体が国内クレジット制度などを活用することを契機に企業連携が生まれる事例が散見されるようになってきている。単なる資金提供にとどまらない企業CSR活動を通じた社員研修やボランティア活動、里地里山資源を利用した企業の新たな活動分野の開拓など模索されている。</p>
手法／方策の詳細	<p>岡山県真庭市では、バイオマス事業の取り組みが有名になっており、今後は国内クレジット制度の売却益を使った里地里山保全や生物多様性保全に取り組むことを検討している。</p> <p>1) バイオマスによる国内クレジット活用と企業連携(図1) 市庁舎にバイオマスボイラーを導入。国内クレジット制度を利用するに当たりパートナー企業を募集し、(株)トンボと(社)真庭市観光連盟と「未来につなぐ真庭の森づくり協定」を締結。 (株)トンボでは、カーボンオフセット商品、(社)では、市内でのオフセットツアーを企画検討している。クレジット購入代金を資金に森づくりや交流などの取り組みを展開している。</p> <p>2) 里地里山保全と生物多様性保全の活動(トンボの里プロジェクト構想) 連携する企業のCSR活動と共に、森づくりのほか、水田耕作放棄地など周辺の水辺環境を保全整備し、様々な生き物が生息できる環境を整え、植物やキノコ類が生息できるようにしていこうとしている(図2, 3)。</p> <p>3) 保全フィールドの創出と多様な主体の連携(図4) 里地里山保全活動・生物多様性保全活動を通じて、企業連携を深めるとともに、身近な自然環境を活用することで、住民の参加も促進を図る。津黒生き物ふれあいの里では取り組み内容を環境学習やエコツアーに対応するプログラム化を図ることで、より多くの企業や参加者が外部から参加可能なものとしていこうとしている。</p>
手法・技術的視点	<p>1) 国内クレジット制度を活用した企業連携活動 資金提供に留まらない企業連携活動を促進する工夫や連携主体がそれぞれの役割に応じた活用策を講じていることが着目される。市では市有林を中心とする保全整備活動の推進、企業ではオフセット商品開発やオフセットツアーなどが企画実施されている。</p> <p>2) 取り組みのすそ野を広げる生物多様性保全活動と地域作り 企業連携を契機にして、身近な里地里山環境を活用した保全整備やプログラムが企画されている。特に水田耕作放棄地など地域課題への対応策も視野に入れられており、今後住民参加による生物多様性保全活動と一体となった地域作りの側面でもその効果が期待される。</p>

実行プロセス・運営体制のイメージ



図・写真資料

**図1**

未来につなぐ真庭の森づくり協定

平成23年2月7日 株式会社トンボと真庭市  
「未来につなぐ真庭の森づくり協定」締結

株式会社トンボ・真庭市「未来につなぐ真庭の森づくり協定」調印式

(目的)  
 ○バイオマスボイラーによる国内クレジット認証に取り組み、二酸化炭素削減を図ること、地球温暖化防止に貢献する。  
 ○森づくりを通じ、真南・真北という相川でつながる立地や互いの地域・事業に携わる人と人との交流や技術の交流など幅広い交流を行い、双方の活性化を目指す。

**図2**

下草刈り前

下草刈り後

**図3**

湧水地が点在していました。

**図4**

活動場所

① 谷津田跡で、現在、林冠はコナラ、草本層はイブキザサが覆っている。  
 ② アカマツ林で、低木層にアセビ、草本層にイブキザサが覆っている。

参考資料

里なび研修会in岡山県パワーポイント資料(真庭市・津黒いきものふれあいの里)